

塚口先生と行く 大分・熊本の古代史を探る旅 (一)

(会員) 古高 邦子

五月二六日(水)
 小熊山古墳—御塔山古墳—大分市歴史資料館—古宮古墳—海部古墳資料館・亀塚古墳—築山古墳

「塚口先生と行く大分・熊本の古代史を探る旅(古代史跡探訪会主催)」に参加するため、伊丹空港に二一名(豊中歴史同好会会員は二一名)が集合しました。今回は塚口義信先生のほか、中司照世先生もご同行です。

一時間一五分で海の近くにある大分空港に到着。五月下旬であるにもかかわらず、肌寒い。長袖のシャツにベストを羽織って、ちょうどいい気温です。

空港では、大分の古墳を解説していただ

く杵築市教育委員会生涯学習課主任の吉田和彦先生にお出迎えいただきました。ふくよかな親しみやすい雰囲気の中で、関西で勉強されたこと

もあるそうです。

最初の見学地である小熊山古墳に向かうバスの中で塚口先生から、今回の旅行の「主な目的」は、次の三点であるとお聞きしました。



バスで講義中の塚口先生

1. ヤマト政権(畿内政権)内で勃発した「四世紀末の争乱」が大分・熊本地方の政治集団に影響を与えているかどうか、についての調査・研究。

2. 「神武天皇と椎根津彦」に関する伝説はいつ頃形成されたのか、また、それはどのような出来事が背景となって形づくられたのか、などについて探る。

3. コノハナサクヤビメ神話が語っている阿多隼人一族のヤマト王権に対する服属はいつ頃のことであったのか、薩摩半島南西部(南さつま市加世田)に所在する奥山古墳と、それに影響を与えている宇土半島基部付近に所在する古墳のあり方から、この疑問に迫る。

それぞれの視点で問題意識を持って見学してください、とのこと。勉強もしたり?して、そのうえできれいな景色やおいしい食事、友人との語らいも楽しみたいなど欲張りなことを思いました。

【小熊山古墳】

最初に訪れた小熊山古墳の発見は意外に

も平成三年（一九九一年）とのことです。標高八〇メートルほどの小熊山にある三方を海に囲まれた見晴らしのよい三世紀末〜四世紀初めに造られた古墳です。墳長は一・二〇メートル弱、豊後最大級の前方後円墳で、後円部は三段築成、墳形は行燈山古墳（崇神陵古墳）と似ており、墳形で畿内政権との結びつきが考えられています。

バスから降りると、車が止まっています。先客かな？と思っていたら、何と杵築市の教育委員会のみなさんがわたしたちのために事前に古墳を見やすいように草を刈り、出土した埴輪をわざわざ持ってきてくださいました。実際に間近に見た四〇センチメートル以上ある壺形埴輪は迫力があります。底がなく、お供え用ではないかとのこと。畿内の要素と地方的要素を併せ持つ鱧付きの円筒埴輪は九州では二例で、しかもその中では最初のものだそうです。古墳を上っている途中、ホトトギスのさえずりが聞こえました。頂上からは市街地やきれいな海が見渡せます。晴れた日には熊

本県境、愛媛県の佐多岬、山口県の島まで見えるそうです。

塚口先生から、神武天皇が東征の途上で、国つ神の椎根津彦が現れて航路を案内したという速吸之門はやすいのかどは、豊予海峡（『古事記』は明石海峡）とのことであり、この説話は亀



埴輪の模型を持って説明中の吉田先生

塚古墳や築山古墳、臼塚古墳などを築いた、四世紀末〜五世紀前半頃に栄えた海部地域の集団と関係しているのではないかと、伺いました。

中司先生のお話では国東半島には和歌山県の紀氏や、海部氏と関係深い（真玉大塚古墳またまおつかなど）古墳があるそうです。

【御塔山古墳おとうやま】

海岸近くにある御塔山古墳は昭和四八年（一九七三年）に発見された中期初頭の九州地方最大の造出付円墳。墳径七五メートル強に五メートルほどの造出が付きます。形象埴輪が多数出土していますが、九州で三か所しか出土していない導水施設を模した囀形埴輪や、九州で唯一の出土例である木槌形土製品など、近畿の主要古墳とよく似た埴輪が出土しています。

これらのことから、小熊山古墳や御塔山古墳は、畿内政権と関わりの強い盟主によって瀬戸内海を見渡せる国東半島のこの地に、造られたのではないかと、ということです。国東半島で二つの古墳を見学した後、バ

スは別府へ向かいます。昼食は新鮮な魚づくしの魚定食でした。車中では大分飛行場沿いの杵築沿海路（国道二一三号）での、安岐川河口における橋建設などに伴い、今はもう消滅してしまつた【下原古墳】のお話を伺いました。この古墳は九州では珍しい前期初頭の纏向型前方後円墳。竪穴式石槨で内部に箱形木棺があり、手焙形土器（庄内式土器）が出土しています。国東半島は畿内からは瀬戸内海を通り、九州で最初に着くところ。ヤマト政権との深い結びつきが考えられます。

【大分市歴史資料館】

大分市歴史資料館の周辺は史跡公園になつていて、東側には豊後国分寺跡があります。学芸員の中西武尚先生にこれから行く古宮古墳や亀塚古墳の解説を伺いました。今は整備されていますが、整備前の亀塚古墳の模型や千代丸古墳の石室の線刻画（複製）が興味深かったです。資料館よりお茶のペットボトルを差し入れていただきました。感謝！感謝！

【古宮古墳】

古宮古墳へ行く車中で、塚口先生からの古墳と大化の薄葬令との関係についての講義をしていただきました。この古墳の内部構造は近畿によくみられる横口式石槨で縦一・七七メートル、横一・六五メートル、長さ約二・五〇メートルの直方体の凝灰岩をくりぬいたものであり、九州ではほかにこのようなタイプの古墳はないそうです。

大化の薄葬令で規定する大きさであるという説もあるが、被葬者と思われる大分君恵尺の没年の天武四年（六七五年）には大化の薄葬令はもう効力がなくさらに厳しい規定になつていたのではないかということです。なお、大分君恵尺は、六七二年に起こった壬申の乱のときに大海人皇子に従って活躍したと『日本書紀』に書かれているように、ヤマト朝廷と深い関係があつた人物です。

古墳は団地の真ん中にあり、公園として整備されています。斜面にある南北一二・四五メートル、東西一二・一五メートルほ



古宮古墳

どの七世紀後半の方墳です。周りには白いマーガレットや黄色のオオキンケイギクが咲き乱れ、小鳥の声も聞こえてきます。階段を上り、金網越しに石槨を見ることができました。

バスは別府湾南東部の佐賀関方面に向かいます。

【海部古墳資料館】

海部古墳資料館は亀塚古墳・小亀塚古墳と一体化したガイダンス施設で、入り口を入ると、大きな船形埴輪が目を引きまします。館長の岩田和男先生の説明ではこの埴輪は、船形埴輪の船首部分が出土したことから、大阪の長原高廻り二号墳出土の船形埴輪を参考にして復元されたとか。ヤマトからこの海部（律令下では豊後国海部郡）を通り朝鮮半島へ渡っていたのではないかと、また海部の古墳は海上交通の盛んな時のみに造られ、五世紀中頃で消えてしまったとのこととです。亀塚古墳出土の家形石棺の蓋も展示してあります。

【亀塚古墳】

豊後水道で縦横に船を繰り活躍した、海部族の王が築いたとされる亀塚古墳は、古墳公園として整備され、明石の五色塚古墳とよく似た形に復元されました。眺望がよく三六〇度のパノラマで、四国の佐多岬も見えるそうです。

この古墳の築造時期は古墳時代前期末で、



2010. 5. 26 亀塚古墳にて

墳長は一六メートル、この時代の豊後最大の前方後円墳。西側のくびれ部に造出があります。後円部から二基の主体部（埋葬施設）が確認され、第一主体は長大な箱形石棺で、第二主体は竪穴式石槨を意識した小口積みの石室の内部に、在地の特徴である剝抜式石棺を埋置したと考えられるそうです。墳丘には埴輪を巡らし、形象埴輪や舟・スイジガイの線刻文のある円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土しています。このことから海を意識した古墳であると、吉田先生から伺いました。

【築山古墳】

神埼八幡社（こやまき）の中にある築山古墳では、ボランティアガイドの和田米男さんに案内していただきました。墓域の調査のときに吉田先生に協力されたそうです。この古墳は自然のままに保存され、地元では「石棺さま」と呼ばれ、覆い屋を造り大切にされています。管理も地元の人が無料奉仕され、お金をかけていないと誇らしげにおっしゃっていました。

別府湾を望む小高い場所に築かれた墳長約九八メートルの前方後円墳で、四世紀末～五世紀初めに築造され、亀塚古墳と同様、海部の首長の墓と考えられています。二基の石棺は緑泥片岩で造られた箱形石棺で、南石棺には女性一体、不明二体の計三体が埋葬され、北石棺には女性一体が埋葬されていました。女性の骨には海に潜っている人に見える耳の奥の突起があるそうです。この被葬者は海女も兼ねていたようです。

これで今日の見学は終了！見学した古墳はいずれも畿内との関係が深い古墳でした。今夜の宿泊ホテル「法華クラブ大分」へ到着。夕食はホテル近くの豊後の地魚・地酒の店「酔門」で、豊後水道で獲れた新鮮な魚料理と美味しいお酒をいただきました。大分の人々の温かい心にもふれた幸せな一日でした。

(つづく)



秋暑し南部釜師の湯を汲める

宮田 佐智子



十一月の例会

十一月十三日(土) 午後二時より
会場 教育センター

「藤原京から平城京へ」
大阪大学大学院 准教授

市 大樹 先生

十一月の現地見学

十一月末頃に弥生文化博物館で開催される「邪馬台国への道・九州と近畿」を見学する予定です。詳細は後程お知らせします。

編集後記

記録的な猛暑がやっと終わりを告げ、アキアカネも見かけるようになりました。稲刈りも始まり、待ちに待った秋がやってきました。

九月に入ってから次々と話題の発掘調査の現地説明会が行われ、明日香村の牽牛子塚古墳は八角形墳であることが明らかになりました。先日、石野先生からご説明のあった纏向遺跡の大型建物の脇からは、二千個もの桃の核が発掘されました。

考古学ニュースから目が離せませんね。現地見学のシーズン到来です。

<http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>